



HOSPITALITY

SATISFACTION

PARTNERSHIP

INNOVATION

TASK

LIFE

病院・診療所のみなさまへ

城陽江尻病院だより 2025年4月号

- 早くて柔軟な画像診断を心掛けています
- ポリファーマシー対策を前に進めました
ほか

病院・診療所のみなさまへ

いつも当院をご利用くださり、誠にありがとうございます。春の訪れとともに、新たな年度がスタートしました。昨今、医療業界では医療材料や光熱費、人件費、食材費の高騰に加え、人材不足といった課題に直面しています。しかし、このような状況だからこそ、医療の質を維持し、さらに向上させるための工夫や取り組みが重要となります。今後は、各種材料の共同購入の導入や、人材確保のための積極的な採用、特定技能外国人の活用、さらには AI や RPA ツールを活用した業務の効率化を進めることで、より持続可能な医療環境を築いていきたいと考えています。地域医療を支えるために、皆さまと力を合わせながら、より良い医療サービスの提供を目指してまいります。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

当院の広報紙『城陽江尻病院だより』ですが、2025年4月号ができあがりしました。今号の特集は、「早くて柔軟な画像診断を心掛けています」と「ポリファーマシー対策を前に進めました」となっております。ご一読いただければ幸いです。

早くて柔軟な画像診断を心掛けています (放射線診断専門医 坂本一夫)

画像診断を担当しております、放射線科の坂本です。当院の画像診断装置は、64列X線CT、1.5T MRIをはじめ、フラットパネルX線撮影、X線テレビ透視検査、マンモグラフィー、骨密度測定装置などがあります。このうちCTは、5月に新しくなる予定です。また、エコー室との連携も行っております。地域の先生方からのご依頼は主にCT・MRIによる画像診断ですが、必要に応じて他の装置もご利用いただければ幸いです。

地域の先生方からの画像診断依頼になるべく早く情報をお届けすることをモットーにしており、たとえば午前の外来診療中に来院された患者さまについてはその場でレポートを作成しお持ち帰りいただくよう努めております。午後に来院された患者さまについては、遅くとも翌日の午前中にレポートが届くように心がけております。特にお急ぎの場合、なるべく臨機応変に対応いたしますので、当院地域連携課 (Tel:0120-25-1245) にお問い合わせいただき、私 (坂本) あるいは診療放射線技師に繋ぐようお伝えください。

また、画像診断の可否、モダリティーの選択、造影の可否など、画像診断に関するご相談や疑問などにつきまして、遠慮なくお問い合わせいただけましたら幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



読影風景：効率良く読影できるよう5メガピクセルモニター2台やワークステーションなどを配置して業務にあたっております。2024年度に読影端末を一新いたしました。



MRI：GE社製のSIGMA Explorer（1.5T）を導入しています。



CT：現在、GE社製のRevolution EVO（64列）を導入しております。被ばく低減機能があり身体に優しいものとなっております。5月にはさらに新しいものを導入する予定です。



骨密度測定装置：2021年11月にGE社製のPRODIGY Fugaに一新いたしました。X線を用いた、全身用の装置です。「高画質」「被ばくが少ない」「検査時間が短い」「全身体組成測定で、脂肪や筋肉の量・分布を調べられる」などが特徴です。

ポリファーマシー対策を前に進めました

ポリファーマシーとは、多くの薬を飲んでいることにより、薬の相互作用や飲み間違い、飲み忘れなどなどが起こり、有害事象が発生することです。日本では 2000 年代初頭から問題視されるようになり、すでに診療報酬にも盛り込まれているため、対策を進めている医療機関が多いことと存じます。一方当院では、薬剤課のマンパワー不足などを背景に、あまり対策を進めることができておらず、指標となる薬剤総合評価調整加算や薬剤調整加算は月 1 件も算定していないのが現状でした。そこで、問題の分析や仕組みの改善を行い、ポリファーマシー対策を前に進めましたので、ご報告いたします。

まずは問題の分析を行うべく、アンケート調査を行ってみました。結果の概要としては、「薬剤師以外のコメディカルの多くはポリファーマシーをあまり意識していない（図 1）」「医師の多くはポリファーマシー対策の重要性を認知しているものの、減薬への不安や患者さんの抵抗があつてあまり行動に移せていない」というものでした。

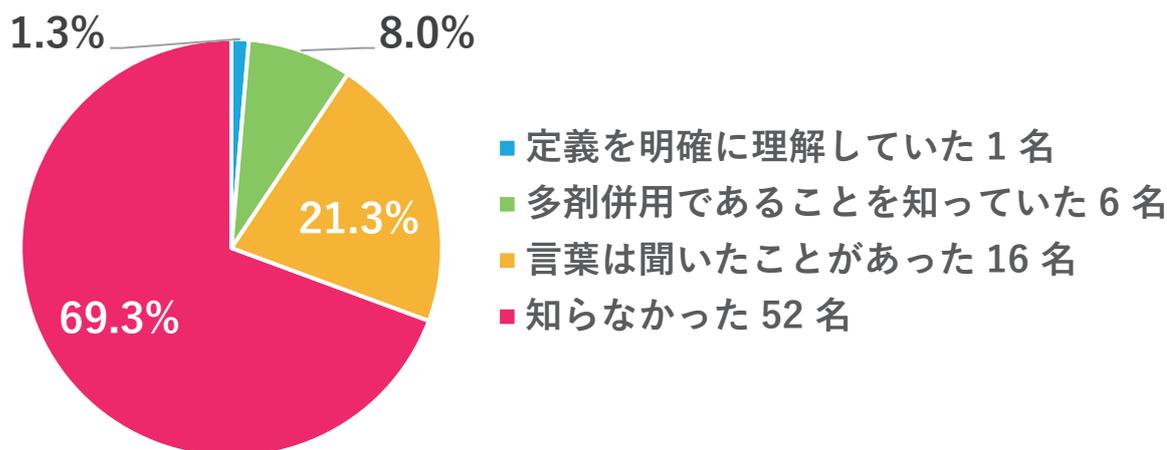


図 1：ポリファーマシーに関するアンケート調査結果の一部
(病棟看護師・リハビリ課スタッフ)

そこで、ポリファーマシーやその対策を意識してもらうべく、「高齢者のポリファーマシー対策」と題した勉強会を行いました。また、複数職種が集まるカンファレンスに薬剤師も顔を出すようにし、そこでポリファーマシーに関する発言を行っていくようにしました。これによって、ポリファーマシーへの意識が高まるだけでなく、薬剤師と他職種が連携しやすい環境づくりも進めることができました。

医師に対する減薬の提案は、以前から行っておりました。しかし、薬剤師の人数に対して、減薬の要否を検討する対象患者さんが非常に多く、スクリーニングばかりに時間をとられ、実際に減薬の提案を行う件数は限定的となっていました。そこで、スクリーニングの条件を見直すこととしました。具体的には、「**服用薬剤数10種類以上の患者さんに限定する（6種類から10種類に変更）**」「**入院日数が14日以上となる見込みの患者さんに限定する**」「**医師以外でも必要性を判断しやすい薬剤を服用している患者さんに限定する**」としました。服用薬剤数については、高齢化が進んで服用薬剤数が増えており、6種類ではかなり多くの患者さんが含まれてしまうためです。入院日数については、退院までの日数が少ないと、減薬による効果や不具合を確認し適切な対応を行うことができないためです。医師以外でも必要性を判断しやすい薬剤とは、鎮痒剤・制吐剤・緩下剤・鎮痛剤などが挙げられます。

取り組みの結果、指標となる薬剤総合評価調整加算や薬剤調整加算の件数を増やすことに成功しました（図2）。勉強会やカンファレンスを通じた啓蒙活動、スタッフ間の情報共有や連携の強化、スクリーニング条件の見直しが功を奏したものと思います。取り組みを続けていくことで、ポリファーマシー対策をさらに進め、ポリファーマシーを減らしていきたいと思います。また今後は、患者さんやご家族の不安を軽減したり、退院後の減薬継続などにも取り組んでいきたいと思います。

	2021年度	2022年度	2023年度	
薬剤総合評価調整加算	1.1	0.7	2.8	(件/月)
薬剤調整加算	0.6	0.1	0.7	(件/月)

図2：ポリファーマシー対策の指標となる加算の件数推移

看護師ケーススタディ発表会



2025年3月12・13日に卒後2年目の看護師6名のケーススタディ発表会が行われました。先輩の指導と協力のもと、全員発表することができました。

課題解決発表会



2025年3月25日に看護部外来、検査課、放射線課による課題解決発表会が行われました。どの部門も重要な課題に取り組み、成果を上げることができました。審査員による採点の結果、今年度は看護部外来が最優秀賞を受賞しました。

新入職員オリエンテーション



2025年4月1・2・3日に新入職員オリエンテーションが行われました。今年もやる気に満ちあふれた方がたくさん入職しました。皆さん最初は緊張した面持ちでしたが、とても意欲的に取り組んでいました。

患者さまのご予約方法

入院・転院のご依頼
外来診療のご依頼
上部・下部消化管内視鏡のご依頼

➔ **079-225-1231**（地域連携課）にお電話ください。
担当医と調整の上、予約を入れさせていただきます。

CT・MRI・超音波・骨密度・マンモグラフィーのご依頼

➔ **079-225-1231**（放射線課）にお電話ください。

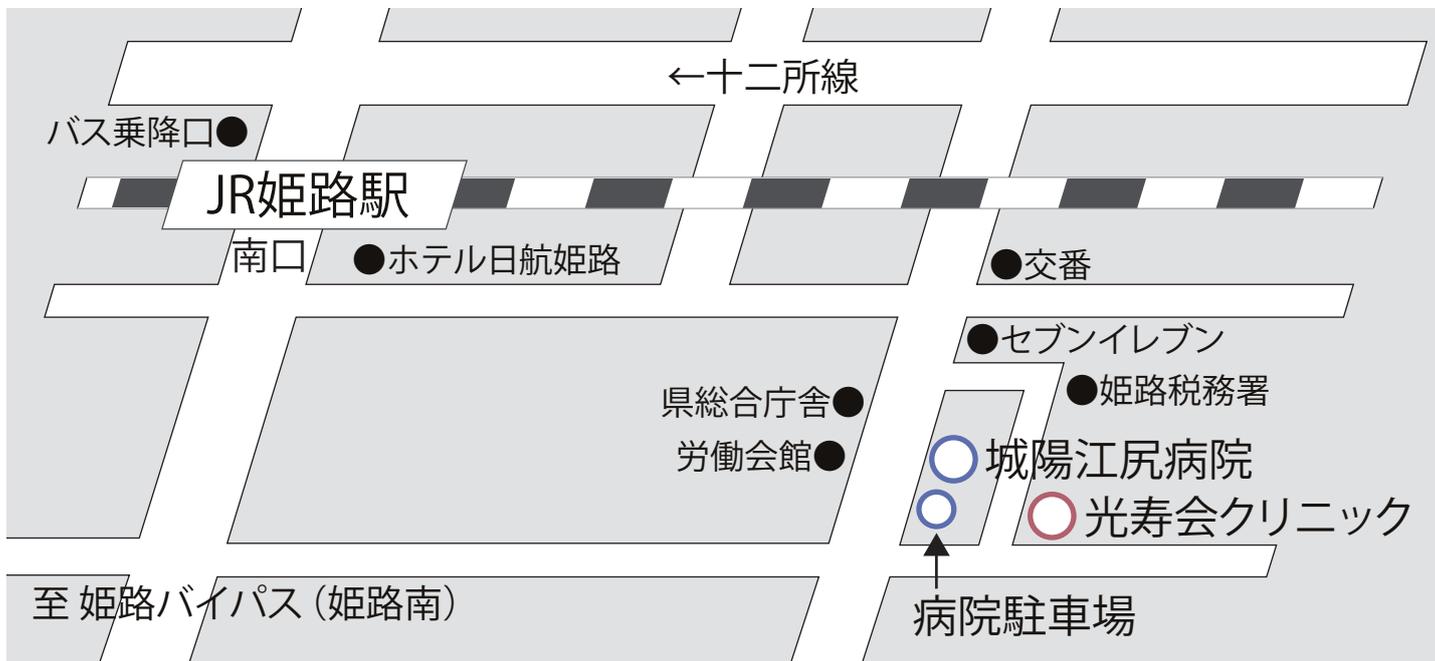
※ 受付時間は 8:30 ～ 19:00 となっております（日曜、祝日を除く）。

ご予約後の流れ

患者さまに、以下のものをご持参いただくようお願いください。

貴院からの診療情報提供書（紹介状）
（CT・MRI をご依頼の場合は所見用紙）
健康保険証
当院受診歴のある方は、当院の診察券
（必要に応じて）貴院での血液検査結果、投薬情報

患者さまに、来院当日は1階総合受付にお越しいただくようお願いください。
スタッフがご案内いたします。



〒670-0947 兵庫県姫路市北条1丁目279
 ホームページ：www.ejirihospital.or.jp
 代表 Tel：079-225-1231
 Fax：079-222-0154



EJIRI HOSPITAL
 城陽江尻病院